

八街のいいね!を語ろう会(第2回)を開催しました!

当日の様子はこちら
(市役所のHP →)

令和6年10月19日(土)に八街市中央公民館で「第2回八街のいいね!を語ろう会」を開催しました。昨年を上回る59名が参加。区・自治会の活動の事例発表(※)を聞いたあと、7グループにわかれ、事例発表の内容や八街についての思いを語りあいました。

今回は区や町内会、婦人会での具体的な4つの取り組みが発表されました。「区長会勉強会」も兼ねて開催したので、多くの区長さんにも参加いただきました。

※事例発表

- 防災プログラムと会報誌の発行
(一区第11町内会)
- 笑顔になれる新形態のクラブ活動
(富山区婦人会)
- 移動支援サービス(みどり台自治会)
- ミュージックフェスティバルから文違文化祭へ
(文違区)



参加者の感想

婦人会活動の報告を受けて、「女性パワーが地域活動を動かしている」「ママ友つながりから始まっている」など、今までにない新しい動きとの意見がありました。また、「男性はどんな活動をしているの?」との疑問もあがっていました。

情報収集の視点から、「自分の区のことしか知らなかった」「他の区と話す機会がない」など、情報共有する場所や話す機会がないという声もあがっていました。

八街市内でも「区ごとで取り組みが違う」との意見もあり、今回のような取り組みが、参加者の新しい発見や気づきにつながっています。

さらには、「区の役員をやったときは大変だったけど、でも楽しかったと皆さんに伝えてます」との意見もあり、頭で考えるよりも積極的に区の活動に関わることが、自身の新しい経験につながっているようです。

最後に「八街の良いところ、好きなこと」を書いていただき、「八街のいいね!の木」を皆さんと作りました。

こうした開催を通じて、八街のいいね!を増やす活動に皆さんと取り組みたいと思います。



防災プログラムと会報誌の発行/ 今取り組む4つの課題

発表団体: 八街一区第11町内会

八街一区第11町内会は、235世帯が加入。約50年前、デベロッパーが八街中央公園周辺に開発した住宅団地と地元住民が親睦を図りながら自治会を運営してきました。毎年、納涼親睦会と忘年会を開催。スポーツイベントでも毎年市ソフトボール大会へ参加し、好成績を収めています。交流親睦としてゴルフの会、パークゴルフなどの活動も盛んです。

自主防災活動スタート

令和5年11月に自主防災組織を設立しました。防災拠点は、1年前に造られた新団地内の公園に決めました。市から補助金50万円が支給され、防災倉庫や発電機を購入しました。令和6年11月に実施した防災訓練では、活動班（安否確認班、情報班、避難誘導班、救出・救護・搬送班、給水班、給食班など）が意見を出し合いながら準備を進めました。

みんなでつくるフリーペーパー

今年度から会報誌「ぼっちぼちイレブン」を発行しています。タイトルは八街名物「らっかぼっち」と「ぼちぼち」をかけ、第11町内会なので「イレブン」にしました。背景デザインは、町内に住むイラストレーターが作成。内容をより親しみやすくして、ほっとする話題を提供しています。



楽しんで交流、元気な女性たち

3年前、元気な女性たちが卓球チームを結成し、老人福祉センター「ゆうゆう」を拠点にプレーを楽しんでいます。さらに親睦を目的にカラオケやダンスも始めました。去年は、一区婦人会から声がかかり、「婦人祭」でダンスを披露しました。「楽しめる」婦人会を目指しています。

清掃やイベントで交流へ

新しく住宅団地が造成され、町内会へいかに新住民に加入してもらうかが課題となっています。

新団地内の公園を防災拠点とし、町内会が自主管理をしています。ごみゼロ・側溝清掃、防災訓練・スポーツ・お祭り・親睦会などのイベントで交流を図る計画です。自然に加入できる雰囲気づくりを大切にして、加入していない世帯に「いつでもどうぞ」と門戸を開いています。また、災害時には未加入世帯であっても救出・救護の対象としています。

町内会活動の鍵を握るのは、若い世代の加入です。まずは、仲良くなってから、長い目で加入促進へつなげていきます。

笑顔になれる新形態の倶楽部活動

発表団体: 富山区婦人会/スマイル倶楽部

八街市の中央よりやや北方向に位置する富山区。世帯数1,511。区加入世帯数650。

富山区婦人会は、幅広い活動をしています。令和6年度の会員数は64名。会員の半数近くが4つのサークル（手芸、踊り、トールペイント、ハンドメイド）に属し、それぞれ活動しています。また、区主催行事にも参加、お手伝いしています。年間行事は、親睦旅行（県内外への日帰りバス旅行）、富山女子会（飲食等を楽しむ集い）です。

新しい倶楽部を提案

令和5年4月、新たに会員に楽しんでもらうことを目的とする「スマイル倶楽部」を立ち上げました。登録者23名。実施回数は、昨年度15回、今年度は9月時点で既に12回。会員年齢も上がる中、どうしたら皆さんが元気になれるか協議し、レクリエーションには多くの効果があることを知り、新しい形態の倶楽部を立ち上げました。

お出かけレクリエーション

年10回の予定（主に県内）。目的は、非日常の中でリフレッシュ。特徴は、マイカーで乗り合わせて移動。マイカー利用のため、トイレ事情を抱えている方も、気軽にトイレに行けるので、安心して参加ができます。玄関前まで送迎可能のため、親睦旅行を断念していた方にも、会員との外出ができる機会を提供できます。



室内レクリエーション

年7回計画。目的は、心身の健康維持。特徴は、体力に自信がない方でも楽しめ、苦手なことは無理にしない。会場は、身近な富山コミュニティセンター。料理を作ったり、ハンドメイドで様々なものを作ったり、クイズ大会やお茶会をしたりして楽しんでいます。

公式LINEの運用

情報提供の仕方を検討。案内状（紙面）だけでは内容が伝わらないこともあり、情報伝達の早さを考え、公式LINEを取り入れて運用しています。

これらの活動を取り入れた結果、参加者の方から「企画内容に工夫があり毎回楽しみにしています。皆さんとのお喋りが楽しみです」、「臨機応変に対応出来るのが素晴らしい」、「LINEを利用した連絡が画期的」との声が上がっています。

課題は、「公共交通機関を利用したお出かけレク」、「悪天候や参加人数が少ないとき、日程や内容を変更し、楽しむ機会を減らさない企画」、「スマホを持たない会員」への対応です。

幅広い活動の中、役員の方々は、会員のあらゆる状況を考えながら、また、楽しみながら活動されています。

「ミュージックフェスティバルから文違文化祭へ」

発表団体：文違区

文違区の世帯数は、2,830で八街市では最大規模です。区加入世帯数は、1,038となります。

コロナ禍以前は、個々のグループが集まり、音楽や芸能などのイベントを行っていましたが、区は、場所の提供だけをしていました。最近は、高齢化が進み、次第にこのようなイベントが開かれなくなりました。それでもイベントで楽しい思い出を経験した人たちは、このような場を必要としていました。

区主催として実行

区として、このような状況を把握しつつも、コロナ禍もあり企画はしたものの断念せざるを得ませんでした。

コロナが落ち着きつつある中で、人と人とのつながりの活性化の一つになるのではないかと、区主催で行うことに決めたのは昨年のことでした。

「ミュージックフェスティバル＆フリーマーケット」を企画し、募集をかけたところ思いのほか多くの申込みがありました。

今年の2月に開催した「ミュージックフェスティバル＆フリーマーケット」は、歌をはじめ、ピアノ演奏、日本舞



踊、ダンス、吟詠、マジックショーといった種目まで広がり、個人、団体と合わせて33組、フリーマーケット8団体（キッチンカー4台を含む）が参加し、大盛況でした。演技者は日頃の成果を披露し、参加者も楽しんでいる様子が見受けられ、成功裏に終了することができました。発表する場、居心地のよい場所として今年度も実施することに決まりました。

「ミュージックフェスティバル」から「文違文化祭」へ

課題はいろいろありますが、若い世代の会員は少なく、将来に不安を残しています。これからは、若い人との話し合いの場を増やし、意見を取り入れながら広報活動を強化していきます。

また、文違区には、明治時代半ば頃から祖先の供養と娯楽を兼ねて、毎年盆休みに、歌い踊り続ける市指定無形文化財である「文違麦つき踊り」があります。この伝統的な踊りを文化祭のプログラムに取り入れることで古き良き時代を知ることができます。

今後は、文違文化祭を文違区の「文」と文化祭の「文」とをかけて、「文文祭」（ぶんぶんまつり）として定着させていきます。

住民互助による「移動支援サービス」

発表団体：みどり台自治会

みどり台は、八街市の北部にあり、徒歩圏内にJR榎戸駅、郵便局、交番、スーパーなどがあり、比較的便利な地域です。自治会加入世帯は約360世帯で、加入率は約90%です。しかし、30数年前に30代から40代の世帯が多数入居し、65歳以上の世帯が60%以上となり、高齢化が進んできました。

アンケートの実施

令和2年に、高齢化の進む5年先を見据えて、今後取り組む必要のある課題を知るために、住民意識調査を実施しました。その結果、移動支援についての関心が一番高いという結果を得られました。

移動支援サービスの特徴

既に移動支援サービスを行っている近隣の自治会や市の担当者に相談し、さらに運輸局にも問合せ、道路運送法上の許可や登録の必要がなく、ガソリン代程度を受け取れる方法で行うことになりました。

その結果、会員制で、住民が互いに助け合う形の移動支援サービスになりました。車両は、協力会員の自家用車を使用し、事故発生時の補償は、協力会員が加入している保険で賄います。また、通院の送りのみの対応ですが、市外の病院も対象としました。

安全講習会と利用説明会の開催

令和5年11月から準備を始め、令和6年4月から5月に移動支援サービスについての募集案内チラシを回覧して、利用会員と協力会員を募集し、5月初旬から

開始しました。令和6年7月には、協力会員を対象に『安全運転講習会』を実施し、利用希望者を対象に利用の仕方の説明会を実施しました。

既存の自治会役員が運営

運営の代表者は自治会副会長です。運営の統括管理と会員の登録・変更及び退会等の確認と名簿の管理を行ないます。

コーディネーターはブロック長が担当。利用者の受付とドライバー（協力会員）の調整を行います。協力会員との連絡はLINEを使い、効率的な運用をしています。

会計は自治会の会計担当者が担当し、予算と利用料の管理、報酬の支払い、会計報告をします。

利用会員登録をするための条件

- ① 自治会員であること
- ② 65歳以上であること
- ③ 車を運転できない人かつ家族にも移動手段を持たない人

住民に寄り添った活動を

今後もより良い地域にしていくための活動をどのようにしていくか、情報収集と議論を重ね、病院からの帰りや買い物支援など、状況に応じて内容の見直しをし、地域課題に応じた、住民に寄り添った活動を実施していきます。



PiTからのお知らせ

< 地域力向上スクール ～地域 みんなが参加できる市民活動を広げるために～ >

申込方法：協働のまちづくりPiTに電話またはメールで申込み

申込期限：令和7年1月24日（金）

【キックオフ講演会「団体の未来をつくる事業戦略づくり」】

- 講師：松本祐一氏（NPO法人NPOサポートセンター代表理事、多摩大学経営情報学部教授）
- 日時：令和7年2月1日（土）13時30分～16時
- 場所：八街市総合保健福祉センター3階 大会議室

【地域力向上スクール 3回連続講座】

- 地域づくりに取り組む団体、これから取り組みたい個人などを対象に、地域づくりをテーマに学びます。
1限目：令和7年2月8日（土）自己紹介（活動内容、今後やりたいこと）、キックオフ講演内容のおさらい
2限目：令和7年2月22日（土）事業戦略を深めるワーク、書き方アドバイス、グループトーク
3限目：令和7年3月8日（土）これからの活動の発表と意見交換・相互にアドバイス
●3回とも、13時30分～16時 八街市総合保健福祉センター3階大会議室で行います。

< PiTメーリングリストに登録しませんか？ >

- メーリングリストに登録していただくと、定期的に（月1回）様々な情報をメールでお届けします。
- PiTの活動報告、八街で活動する団体の情報、行政関係や団体、企業などの助成金情報をお届けします。
- 「メーリングリスト希望」とメールに記載してPiTにメール送信をしてください（右上のQRコード）。

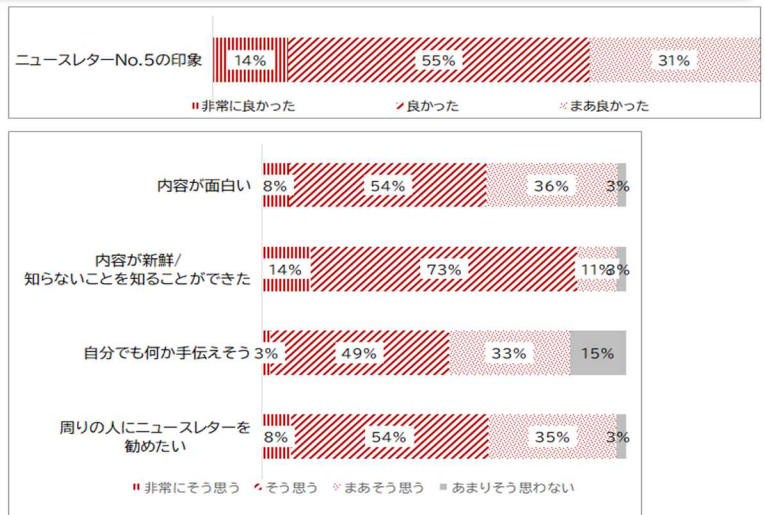
協働のまちづくりPiT
メールアドレス



ニュースレターのアンケート調査結果

「八街のいいね!を語ろう会」の参加者45名の方から「ニュースレターNo.5」（前号）についての評価、印象について回答いただきましたので、結果をご紹介します。

- 回答者の69%が「良かった」と回答しています。内容の「新鮮さ/知らないことを知ることができた」と、「面白さ」が好意的な評価につながる結果となっています。ただ、『自分でも何か手伝えそう』の行動を促すまでの影響力はまだ低い結果となっています。それでも半数の回答者が「そう思う」（52%）と前向きに受け止めていただいています。



令和6年4月から10月までの来訪者数

総数	人数/件数			内訳			
	来訪	電話	メール	一般	ボランティア/NPO法人	行政/議会関係	事業者(企業/商店)
330	245	65	20	117	120	86	7

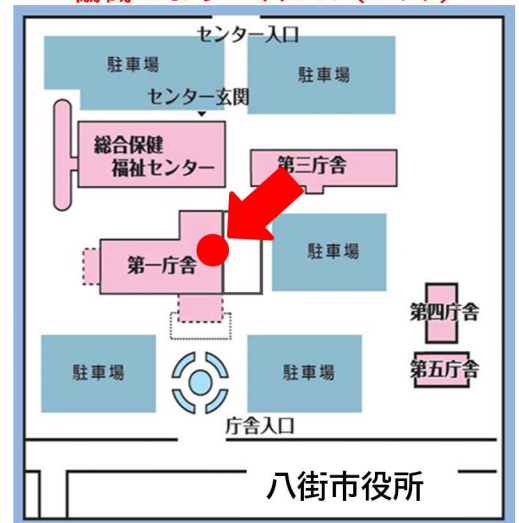


八街市イメージキャラクター
ピーちゃん ナツちゃん

八街市 市民協働推進課 ホームページ
八街市 協働のまちづくりPiT ホームページ



協働のまちづくりPiT（ピット）



開場時間：月曜日～金曜日 9時～17時

〒289-1192 八街市八街35番地29

市民協働推進課 協働のまちづくりPiT（第1庁舎1階）

043-312-2012

発行：八街市市民協働推進課 令和6年12月